

# あがつま



『わたしたちは見えるものではなく  
見えないものに目を注ぎます。  
見えるものは過ぎ去りますが、  
見えないものは永遠に存続するからです』

(コリントの信徒への手紙Ⅱ 4章18節)

## ♪ 賛美歌を歌おう ④

### 『茨の冠かぶせられ』

(こどもさんびか改訂版83番)

この賛美歌は、『こどもさんびか2』(1983年)の出版にあたって公募され選ばれ、こどもさんびか改訂版(2002年)や讃美歌21(1997年)にも引き継がれ掲載されています。

受難(レント)の賛美歌には素晴らしい作品が多くありますが、日本語で作られた作品は少なく、讃美歌21に掲載されている受難・レントの作品(23曲)の中でも、日本語で作られた唯一の賛美歌となっています。

作詞者の桃井綾子(1932-2023)は夫の桃井完二と共に久が原教会(大田区)に仕え、付属のこひつじ幼稚園の副園長を長く務められました。

【作者によれば、この詞はエルサレム滞在中に浮かんだものだということ、40日間のキブツ(共同農場)での生活を終えて帰国しようとしていた時、キプロス島で内戦が起きました。空港が閉鎖されてしまいました。不安な思いの中で、エルサレム市街の主イエスが歩まれた涙の道(ヴィアドロロサ)を歩きました。時は流れても、まだ人間は戦い、憎み合っている現実。今も十字架を背負って歩かれる主がそこにおられました。わたしたちの現実のなかで、今も執り成しを続けられるイエス様の姿を表したかった」と宣べています。(こどもさんびか改訂版略解より引用)



(稲垣)

